

俳句の可能性（２）

>>> T O S S 福井 村上睦

概要

中3 光村。野澤節子「せつせつと眼まで濡らして髪洗ふ」の句で、内容の読み取り、鑑賞文を扱う。教師が書いた鑑賞文を視写させ、自分で書ける生徒には自分で書かせた。2回目なので、自分なりの鑑賞文を書ける生徒が増えた。

内容の読み取り

板書
せつせつと眼まで濡らして髪洗ふ 野澤節子

ノートに写したら小さい声で3回読みなさい。

その後、追い読み、一斉読みで数回読む。

全員起立。覚えたら座りなさい。

季語は何ですか？

「せつせつと」「濡らして」「髪洗う」が出る。

「髪洗う」であることを教える。

季節はいつですか？

「夏」

作者は何をしているのですか？

髪を洗っている。

(俳句はほとんど作者＝話者なので、ここでは特に区別せずに扱った。)

作者はどんな思いで髪を洗っているのでしょうか？

ノートに書かせて持ってこさせ、板書させる。

- ・暑いのでさっぱりしたい(多数)
- ・悲しい気持ち(2名)

補足

季節が夏であることを押さえた上で考えさせたので、「暑い」というイメージが強くなったと考えられる。

この句のポイントは「せつせつと」という言葉です。

「せつせつと」とはどういう意味ですか？

辞書を調べさせた。

- ・心に強くせまる様子

漢字で書くと「切々と」であることも確認する。

「切々と」の「切」は切実の「切」です。何か心に迫るような強い思いがある様子を表しています。

もう一度考えます。作者はどんな思いで髪を洗っているのでしょうか？

列指名で聞いた。

ほとんどが「悲しい気持ち」という答えであった。

補足

「作者のおかれている状況を、いろいろ想像して考えなさい」と指示したが、単に「悲しい気持ち」という答えがほとんどであった。

鑑賞文

たとえば、こんな想像をしてこの句を読むこともできます。

鑑賞文を配る。

前回と同じく、400字詰め原稿用紙の右側(200字)に教師が書いた鑑賞文を載せてある。

鑑賞文

作者は、人生の大きな悩みにぶつかっている。たとえば結婚を選ぶか仕事を選ぶか、というような重大な悩みである。髪を洗いながらも、そのことが頭から離れない。閉じた目を伝って流れ落ちる水も気にならないほど、そのことを強く思い続けているのである。
 悩みが頭から離れないということは、「せつせつと」という言葉から分かる。「せつせつと」とは、「心に強くせまる」という意味だからである。

これを参考にして、自分なりの鑑賞文を書くように指示する。

生徒の鑑賞文

作者は、戦争の時代の人で、自分は助かったが家族はみんな死んでしまった。保護された場所で髪を洗っている時、家族のことを思い出し、目から流れる水も気にならないほど、家族のことを思い続けているのである。(以下略)

毎日ふるにも入らず仕事も休み、病気の夫のいる病院で夫を側で見守っていた。だがついに夫は死んでしまう。一人静かな家に帰り、ふるに何日も入っていないことに気づく。久しぶりに髪を洗おうとすると、シャワーも浴びていないのに顔がぬれていることに気づく。ふるに入ってからさっぱりするものの、心はまだどんよりくもったままである。

補足

鑑賞文をそのまま写した生徒が約4分の1、少しアレンジして書いた生徒が約4分の3弱、自分なりの鑑賞文を書いた生徒が4名であった。